

長年に渡って親しんできた巻機山の家の歴史と譲渡について記録する意味で
ライダーズ・イン・ザ・スカイからピックアップして投稿します。

2020年10月10日発行 No.95 掲載

巻機山の家が53年の歴史に幕を下ろします

昭和42年に竣工し、昭和59年から吉田が管理することになったことから、以降、三条工業山岳部が作業協力して維持を行ってきましたが、今秋をもって閉鎖して譲渡することになりました。



山の家は11月8日にアウトドアライターの森山さんに引き渡しが行われ、森山さんのセカンドハウスとして新たに活用されます。

同封の「巻機山の家のあゆみ」にその歴史が記録されていますが、昭和61年の改修工事、ペンキ塗り、水確保のための水道工事、大雪での雪掘り、薪運びと、それぞれの年代で多くの部員から作業してもらいました。これまでのご協力に感謝申し上げます。

S46年卒・吉田光二

巻機山の家 譲渡の報告

「巻機山の家」は昭和42年に竣工以来今年で53年になり、今冬、煙突やガラスの破損、バルコニーのシロアリ被害など様々なところで緊急補修の必要性が生じました。雪解けを待って全面的な修繕を行なってまいりましたが、維持する事務局も高齢化し、高校山岳部の衰退によって作業ボランティアや利用者も壊滅的に減少しています。赤字の会計も含めてこれ以上の維持と運営が見込めない状況です。

ついては、地元で迷惑をおかけしないためには、余力のあるうちに取り壊しもやむなしと真剣に検討をしてきたところです。

このような状況下で、長年、管理をしていただいている雲天さんに相談していたところ、「巻機山の家」の現実を把握していただいた中で、小屋を壊さない状態で譲渡を受けていただけの方を紹介していただきました。

その方は三条市出身のアウトドアライターの森山伸也さんです。これまで北欧徒歩遠征などを行い、現在は巻機山山麓の清水集落内に雲天さんの親戚の家を購入して奥さんと二人で住まわっていて、著書に『北緯66.6° ラップランド歩き旅』（本の雑誌社）があります。奥さんの大森千歳さんもまたアウトドアライターであり、カメラマン、モデルとして活躍されています。アウトドア雑誌「PEAKS」9月号に飯豊連峰縦走の記事を森山さんが書き、表紙と文中に大森さんが写した写真が掲載されています。

森山さんは雲天とも親しく、しかも、「巻機山の家」の創設会員で長年にわたって代表を務めていただいた故・望月力さん創業の(株)モチヅキの近所に実家を持ち、仕事の面でも(株)モチヅキと縁があります。このお二人であれば安心して活用をお願いでき、皆さんにもご理解を得られるものと考えております。

森山さんへの譲渡については雲天の小野塚和彦さんも地域の活性化にも繋がれると喜んでおられます。また、事務局としてもいろいろと考えた上での決断でもあります。

譲渡は今秋に行い、それをもって「巻機山の家」を解散することにいたしました。

そうしたことから、長い間、心の故郷として親しんでいた皆さんには誠に申し訳ありませんが、以降、「巻機山の家」は利用できなくなります。

以上、譲渡の報告をするとともにご理解をお願いいたします。

長い間のご愛顧に心から感謝申し上げます。

令和2年10月吉日

巻機山の家代表 長谷川一良 (S45年卒)



巻機山の家 譲渡完了の報告

先般、すべての山の家の会員に対して巻機山を譲渡について経過を報告しながらご意見をいただきました。

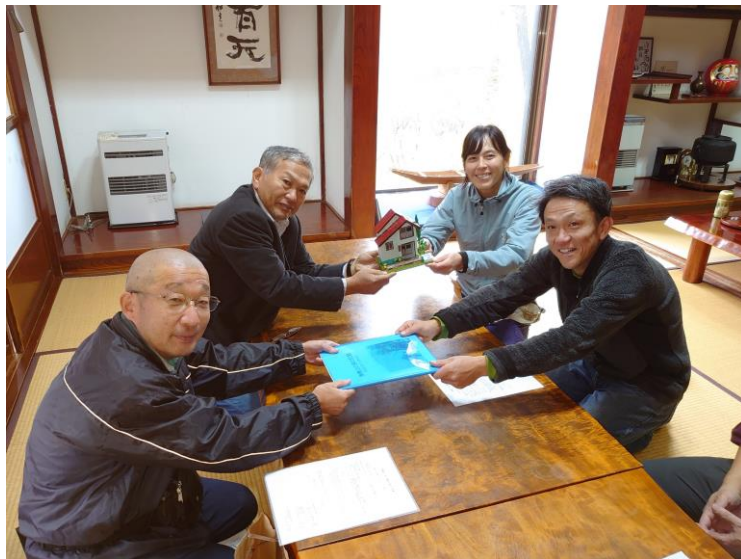
届いたご意見は、創設者でいらっしゃいます金子昌彦先生の「いい人が見つかって良かったね。良い話だ。」に代表されるように、すべてが賛成・承認するという意見でありました。

そうした会員の皆様のご承認のもと、11月8日に「山の家」の冬囲いを森山さんご夫妻と一緒にいき、その後

雲天さんを会場にして、雲天の小野塚和彦さん立会いのもと森山さんと「譲渡に関する覚書」を交わし、「山の家」の模型と鍵や歴史をまとめた資料ファイルの引き渡しを行いました。

金子昌彦先生が中心になって建設されて53年間。多くの人々や、数えきれないほど大勢の山岳部員の思い出が籠もった「山の家」を閉じることになったことに、大変に申し訳なく思う気持ちと、耐えがたいほどの寂しさを感じていますが、「役員の皆様、長期にわたりお疲れさまでした。」という会員からの返信葉書に書かれていた言葉に慰められているところです。

「山の家」の周囲も、昔の田んぼから蕎麦畑に替わり、今は耕作放棄で「山の家」が見えなくなるほどのススキ原になってしまっています。



山の家の模型と鍵・資料ファイルを引き渡し（雲天にて）

桜坂の駐車場が拡張されて大きなトイレができ、週末にはコロナ禍などお構いなしに全国からの車であふれていますが、清水の民宿街の駐車場はすっからかん。

このように人の関わっている山麓部分の変化は大きいですが、肝心の巻機山の美しさは変わる由もありません。

機会があったらぜひ足を向けていただき、雲天さんの囲炉裏端で思い出話に花を咲かせてください。

長い間ご協力いただき、本当にありがとうございました。

令和2年11月吉日

巻機山の家代表

長谷川一良（S45年卒）

※山の家の清算残金17,657円がO B会に寄付されました。

巻機山の家のおゆみ

1967年 11月3日 第1回総会 この日を創設記念日とする
(S42年) 規模：総2階延べ13坪 会員制の山小屋
会員とは出資1万円以上の者をいい、団体は認めない。
年会費は1,000円 宿泊は学生100円 大人150円

創設会員14名(87口) 代表：金子昌彦 事務局：松沢利夫

小野塚忠男 内田碧 岡山晃久 鈴木徳司 鈴木宏一 田村貢 簗浦三郎 望月力
村上絢子 酒井耕一 安野正弘 谷地田トミ子

土地は上田屋より50坪を借りる 借地料1,000円

- 1968年 ナメコ栽培試験
水道一部工事
- 1969年 水道工事
芝生張り 白樺植樹
- 1970年 網戸取付け
- 1972年 上田屋と借地契約書を交わす 借地料年額1,500円
使用料 学生100円 一般200円
- 1973年 事務局を松沢から中村重樹に変更 会員15名
雨板塗装 ストープ入れ替え
借地料を3,000円に値上げ
年会費1,500円に値上げ
- 1974年 大雪で東側ガラス破損
使用料 学生150円 一般200円
- 1975年 維持・管理、組織のあり方に検討の必要性
年会費2,000円 使用料 学生200円 一般300円
巻機山一帯の開発が中止となり、森林組合が山麓の開発を行うことになる
- 1976年 入り口をサッシに入れ替え
- 1977年 5月29日 10周年記念パーティー
小屋の傷みが目立ち始める
- 1978年 外階段をスチール製に取り替え
- 1979年 ストープ入れ替え
使用料 学生300円 一般400円
- 1980年 豪雪
入り口、ベンチレーター、ベランダ補修
- 1981年 屋根修理 屋根・外壁塗装 煙突補修
名義変更によって会員増になったが会費の滞納が増加し、会員の整理が必用な状況となる 会員19名
- 1982年 階段・外壁塗装 煙突補修 ストープ入れ替え 会員17名
- 1983年 雨板塗装
- 1984年 代表事務局を中村から望月力に変更 連絡先を吉田光二とする
改修設計を長谷川一良に依頼
「利用者カード」を作成 使用料1泊300円
土地の所有が共有地であることが判明 借地料3,000円を共有地主（清水地区）に支払い開始
- 1985年 北側屋根と西側窓が破損 修理及び張り替え工事
冬囲い用具を一新
改修計画を決定 会員（17名）の再登録と新会員の募集を行う（再登録費2万円で全員1泊とする 年会費2,000円）
- 1986年 5月 改修工事開始 その他（ポリホース240mで上水工事 ストープ入れ替え 内・外壁塗装）
総2階 延べ16坪ベランダつきの山小屋となる
18日間、長谷川工務店・会員が延べ78人、他に三工山岳部・三工山岳部OB会が協力
総工費131万円の工事となり、秀峰山岳会から30万円の借り入れをして会計処理を行う
9月13～14日 改修工事竣工・20周年記念総会
石部会員揮毫の「巻機山の家」の看板を取り付ける
再登録のなかった会員を「特別会員」として永久的に使用权を保障する
会員・会員同行の家族・会員引率の高校生は無料 それ以外は1泊500円
会員51名 特別会員8名
借地料5,000円に値上げ
2階床ニス塗り 1階内壁塗装 クローバー種蒔き
- 1987年 冬囲い板格納アングル、煙突ダンパー取り付け
犬走り・玄関セメント打ち 東側U字溝・ファイアーサイト等工事
会員55名
- 1988年 住友不動産「巻機山開発計画」発表 「開発計画」への対応策検討
上水を妨害される
- 1989年 秀峰山岳会へ返済完了

- 「開発計画」に清水地区が拒否表明
 雲天の新築計画が具体化
 上水修理 1階フローアー・外壁塗装 クローバー種蒔き
 N02松沢・N04内田の両会員が逝去
- 1990年 雲天新宅後援会発足 「山の家」から「父ちゃん会員」一口10万円を出資
 雲天新宅が竣工 ストープ修理 会員56名
- 1991年 ガソリンランタン導入
 煙突・ストープ補強鉄板交換
 雲天新宅の看板の一部寄贈
- 1992年 2階用スタイロ畳搬入 外壁塗装
 退会を希望する会員は特別会員として使用権を保障する
- 1993年 ガスランタン搬入
- 1994年 ガソリンランタン修理
 借地料7,300円に値上げ
- 1995年 冬囲い金具修理 煙突一部交換
- 1996年 1階窓サッシと木枠入れ替え その他サッシ調整 東側冬囲い更新 ベランダ塗装スト
 ープ及び煙突入れ替え 水源メッシュ交換
- 1997年 屋根・外壁・1階フローアー塗装 水源メッシュ交換 水源ホース修理・埋設
- 1999年 網戸入れ替え 水源変更工事（現在より150m上部に） 洗い場設置 外壁塗装
- 2000年 外壁・1階フローアー・天井・内壁・ベランダ・冬囲い等塗装
- 2001年 屋根塗装 ストープ入れ替え 水源変更工事（現在よりさらに15m上部の湧水地点）
 安野正弘会員が逝去 立子夫人が引継ぐ
- 2004年 10月23日 中越地震発生 特段の被害は無かったもののブロックのひび割れ等がより目
 立つようになった。
- 2005年 2月 10年ぶりといわれる大雪
 7月 補強工事 地震・大雪等で傷んだ小屋を長谷川工務店に依頼して補強工事
 周辺作業を県央工高山岳部員と顧問が行った。
 1階に柱を増強 屋根破風板の交換 二階天井と床に杉板張り 内・外壁・屋根
 と床塗装 総費用約32万円
- 2006年 2月 100年ぶりといわれる大雪。玄関前で4.5m、東側は屋根までで6mの積雪。煙突が
 折れる被害があったが前年の補強工事が功を奏した。
- 2007年 3月 創設会員の望月力代表が逝去された。
 11月 新代表に長谷川一良会員を選出。
- 2008年 11月 事務局吉田が入院中のため総会を休み、この年の年会費を徴収しない。
- 2009年 11月 今年も総会を休み、決算ならびに事務局移転を「通信」で報告する。
 新事務局は宇佐美博康会員とする。 正会員43名 特別会員25名
- 2009年 11月 薪搬入
- 2012年 8月 三条市・イーグルスタジオに委託して屋根塗装
- 2013年 1月25日 雲天母ちゃん（小野塚久子さん）事故で急逝される。
- 2019年 5月10日 雲天父ちゃん（小野塚忠男さん）逝去される。
- 2020年 6月 煙突・臭気塔・二階サッシと玄関ガラス修理 網戸張替 水場流し台交換
 ベランダ撤去 不用品廃棄 屋内外ペンキ塗り 薪搬入
 7月 東側冬囲い柱交換 不用品廃棄
 8月 東冬囲い柱・防腐剤塗装 不用品廃棄
- 2020年 11月8日 アウトドアライター森山伸也ご夫妻に譲渡。**